

# 鳥大獣医 市民感情に配慮

## 実験用の犬猫

### 保健所からの 払い下げ中止

鳥取大学農学部獣医学科(島田章則学科長)は、鳥取保健所からの実験用犬猫の払い下げを来年度いっばいで中止することを決めた。市民の動物愛護感情に配慮したもので、実験用の犬や猫については、専用犬の独自飼育や繁殖を視野に入れた協議を進めている。

同大農学部では、犬や獣医学科内の教官らや猫を実験や実習に使用で組織する「動物実験用場合は他のさまざま委員会」による厳密な動物を使用する場合と同科学的・倫理的判断を様、学外の細かい規定を受けている。

## 05年度以降は 独自飼育の方向

保健所からの払い下げは「実験以外に用いない」「苦痛を与えない」といった誓約書を大学側が提出した上で、無償で行われている。昨年度は犬百十九頭と猫八十六頭が払い下げられ、そのうち生体は七割程度だという。

「人に飼われ、愛されていたはずの犬や猫を実験用にするのは残酷」という市民感情に配慮するため」というのが主な理由。鳥大もその流れを受けて、払い下げ中止に踏み切ることになった。

農学部実験動物委員の伊藤寿啓・獣医学科教授(公衆衛生学)によると、学科の研究は本来、人や動物の苦痛を取り去ることが目的であり、実験動物に対しても苦痛を与えないよう細心の注意を払っている。実験専用犬でも同じだという。

また、独自飼育や繁殖など具体的な代替案について、学部内で引き続き調整していく考えで、伊藤教授は「各教室の実験計画は年度前にならないと決まらなないので必要な頭数や飼育方法などは未定。いずれにせよ、予算の問題も含め研究体制の大幅な見直しが必要」と話している。